



ホーチミン市工科大学 化学工学部

ベトナム社会主義共和国



Faculty of Chemical Engineering, Ho Chi Minh
City University of Technology

●学部学生 16,906人 ●大学院生 7,984人 ●教職員 1,038人
ホームページ <http://www.metu.edu.tr/>
交流協定締結年月日： 2018年6月22日 主管学部：農学部



カントー大学知人が
HCMCTの教員として再会



ASEAN Food Conference 2017
招待講演



HCMCTの学生と

国際交流の特色

ホーチミン市校工科大学(HCMCT)は、2校あるベトナム国家大学の一つであり、ホーチミン市にある工科大学である。現在は、11学部、14研究開発センター、4つの研修センターが存在する。これまでに、6万人の学部学生が工学の専門家として社会に輩出されている。修士の学生も1万人を数えるようになった。

ベトナムの大学との学術交流協定について、これまでは北部のハノイ工科大学(HUST)のみであったが、商工業や農業の発達した南部のホーチミン市などには交流協定校はなかった。HCMCTは、HUSTと共に国家を代表する大学であり、優秀な学生を輩出する大学である。農学部だけでなく、工学部の全ての分野をカバーする教育、研究範囲を有し、ベトナムには親日的な研究者や学生も多く、交流はさらに進展することが期待される。優秀な学生を通じた交流は両大学の研究の推進に加速度的な進展を促す可能性がある。

学術交流協定締結以前からも、活発な交流があり、日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(採択課題「食の安全・機能解析教育に関する東南アジア等の大学間体験学習型プログラム」)において、2015年より毎年、学生1名を招聘している。今後の双方の発展に期待したい。

教員からの声

2017年、久しぶりにホーチミン市で行われた国際学会に参加、カントー大学の知人がHCMCTの教員として再会。懐かしいフォーを食べて、近代的な建築物に囲まれて、数日過ごす。郊外にはベトコンのクチのトンネルが保存されていて、戦争の悲惨さを見ることができる。色々な歴史と伝統を持っている街にある、ホーチミン市校工科大学化学工学部は、食品を含む天然物の研究が盛んで、科学分析に強い。ここ数年、教員、学生交流が始まっており、香川大学食の安全特別コースにも、同大学から留学生を得ている。日本企業は、ベトナムへの進出やベトナムからの研修生の受け入れを望んでおり、交流は、大学の研究だけでなく、地域の交流も巻き込んだ交流になる予定。

農学部教授 田村啓敏

